



患者用インフォメーション

歯肉増殖症

歯肉増殖症は、歯肉肥大または歯肉過形成とも呼ばれ、歯ぐきの異常な過形成をいいます。その原因は様々ですが、次の4つのカテゴリーに分類されます。1) 炎症性歯肉肥大 2) 薬物性歯肉肥大 3) 遺伝性歯肉繊維腫症 4) 全身的原因

炎症性歯肉肥大

歯肉肥大が部分的あるいは全体的に見られ、通常、歯に溜まったプラークに対する炎症反応を指します。ほとんどの場合、口腔衛生が効果的に行われていない患者さんに起こります。（右図参照）歯肉は柔らかく、赤く腫れて出血しやすく、しばしば痛みを伴います。この状態は、口腔衛生を向上させて原因となるプラークや刺激を取り除くことにより、多くは改善されます。



薬物性歯肉肥大

ある種の薬物を服用している人に見られます。炎症性歯肉肥大と異なり、歯ぐきは硬く、無痛で薄いピンク色を呈し、出血を伴うことはありません。右図は、狭心症や高血圧に使われる薬剤ニフェジピンによる歯肉肥大です。重症例では、歯ぐきが歯(歯冠)を完全に覆って歯周病を起こすだけでなく、歯の萌出や歯並びにまで影響を及ぼします。薬物性歯肉肥大は、薬物の使用を中止することで、部分的あるいは完全に改善されます。薬物の使用を中止できない場合、過剰な歯ぐきを外科的に除去(歯肉切除術)することもあります。再び同じ状態に戻ることがよくあります。薬物性歯肉肥大は、歯に溜まるプラークの量にも幾らかの影響をうけるため、効果的な口腔衛生に努めることが大切です。





歯肉増殖症

遺伝性歯肉繊維腫症

これは稀な遺伝で、成人期まで気づかれないこともありますが、通常は幼児期に現れます。歯ぐきは全体的に（時に限局的に）無痛で硬く、薄いピンク色を呈し、ゆっくりと増殖します。右図は、過剰な歯ぐきの増殖のために歯がほとんど覆われている状態を示します。

歯の埋伏や移動を防ぐため、外科的な歯肉の切除が多く

の場合に必要です。遺伝性歯肉繊維腫症では、再発が起こり易く繰り返しの処置が必要となることも頻繁にあります。



全身的原因

妊娠、ホルモンのバランスの崩れ、白血病など、多くの全身的状态もまた、歯ぐきの肥大を起こします。右図は、

“妊娠性エプーリス” “妊娠性歯肉炎” とも呼ばれる歯肉肥大の例です。全身疾患に伴う歯肉肥大は、病状が改善されると（妊娠の場合は出産後）良くなります。薬物性歯肉肥大と同じく、効果的な口腔衛生が歯肉肥大の重症度を左右します。



歯肉増殖症について Q&A

Q: どんな薬が歯肉増殖症をおこすの？

A: 歯肉増殖症に関連して最も知られている薬物は、次の通りです。

1. フェニトイン：てんかんの治療薬として頻繁に処方されます。



患者用インフォメーション

歯肉増殖症

- シクロスポリン：移植後の臓器拒絶反応を予防するためによく使われる免疫抑制剤です。この薬は、乾癬（かんせん）やアトピー性皮膚炎、リウマチ性関節炎、ネフローゼ症候群などの様々な免疫疾患にも用いられます。
- カルシウム拮抗薬：高血圧や狭心症、不整脈などの治療に使われます。よく処方されるものとして、ニフェジピンやアムロジピ、ベラパミルなどがあります。

Q: 上記のうちのいずれかの薬を服用している場合、どのくらいの確率で歯肉肥大はおこるの？

A: フェニトインを長期服用している場合の歯肉肥大の確率は15～50%、シクロスポリンでは27%、カルシウム拮抗薬では10～20%とされています。

Q: 薬の服用量は、歯肉の肥大に影響するの？

A: いったん薬を始めると、口腔衛生状態（口腔内プラークの量）ほど、薬物の服用量は歯肉に対しての影響がそれほどありません。

Q: 歯肉の肥大に気づいたらどうすればいいの？

A: 歯科医による診察を受けてください。ほとんどの場合、歯肉の肥大は、歯科医による注意深い問診（全身既往歴等について）と口腔内検査によって、その原因が明らかにできます。稀に、血液検査や生検など、さらに検査が必要となることもあります。

Q: 歯肉肥大は感染するの？

A: いいえ、歯肉肥大は感染性ではありません。人からうつったり、人にうつることはありません。

Q: 歯肉肥大を軽減するにはどうすればいいの？

A: 一般的に、毎日の口腔衛生を効果的に徹底することにより歯肉の肥大が起こりにくくなります。かかりつけ歯科医があなたの衛生状態をモニターして、力になれるでしょう。より頻回のプロフェッショナルなクリーニングをより頻繁にうけるよう勧められるかも知れませんし、自宅でのブラッシングのテクニックが向上するよう指導されるかも知れません。慢性の歯肉の炎症による歯肉増殖症の場合は、特に効果的な口腔衛生が大切です。薬物性歯肉肥大については、



患者用インフォメーション

歯肉増殖症

かかりつけの医師が歯肉の症状改善のために、他の薬に切り替えることが可能であることもあります。遺伝性歯肉繊維腫症の場合、生涯を通じて歯肉肥大の可能性があります。全身的原因による歯肉肥大・増殖については、全身状態の管理によりそのリスクを軽減できます。

このモノグラフに含まれる情報は、教育目的のみに作成されています。本情報は、専門医のアドバイス、診断、治療にかわるものではありません。健康状態についてのご質問は専門医療提供者にご相談ください。本モノグラムに提供された情報のみに頼ることは、あなたの健康のリスクにつながります。

オーラルメディシン米国アカデミー (THE AMERICAN ACADEMY OF ORAL MEDICINE : AAOM) について

オーラルメディシン米国アカデミーは、デンタルメディシン米国アカデミーとして1945年に設立された非営利団体 (501c6) であり、1966年に現在の名称に改称されました。オーラルメディシン米国アカデミー会員は、国際的に認識されるヘルスケアプロフェッショナルのグループを含む、複雑な全身疾患・口腔粘膜疾患・慢性口腔顔面疼痛などを患う患者の口腔ケアに携わる専門医からなります。オーラルメディシンは、複雑な全身疾患の口腔管理を担い、口腔顔面領域に影響を及ぼす医科関連疾患とその病態の診断および非外科的処置を担う歯科専門分野です。

The American Academy of Oral Medicine • (425) 778-6162 • www.aaom.com • PO Box 2016 • Edmonds • WA • 98020-9516